

Road Hazard Condition Monitoring System

狙い

量産車両を活用し、常に道路状態をモニタリングすることで、“現在”の道路状況を考慮したメンテナンスや劣化予測を行い、より低コストで即時性の高い道路管理を可能にする。

技術内容

量産車両データを活用して路面状態を検知・認識する

- ・ Pothole検出・道路路面の劣化推定・劣化予測

走行情報

- ・ 位置情報
- ・ 車速

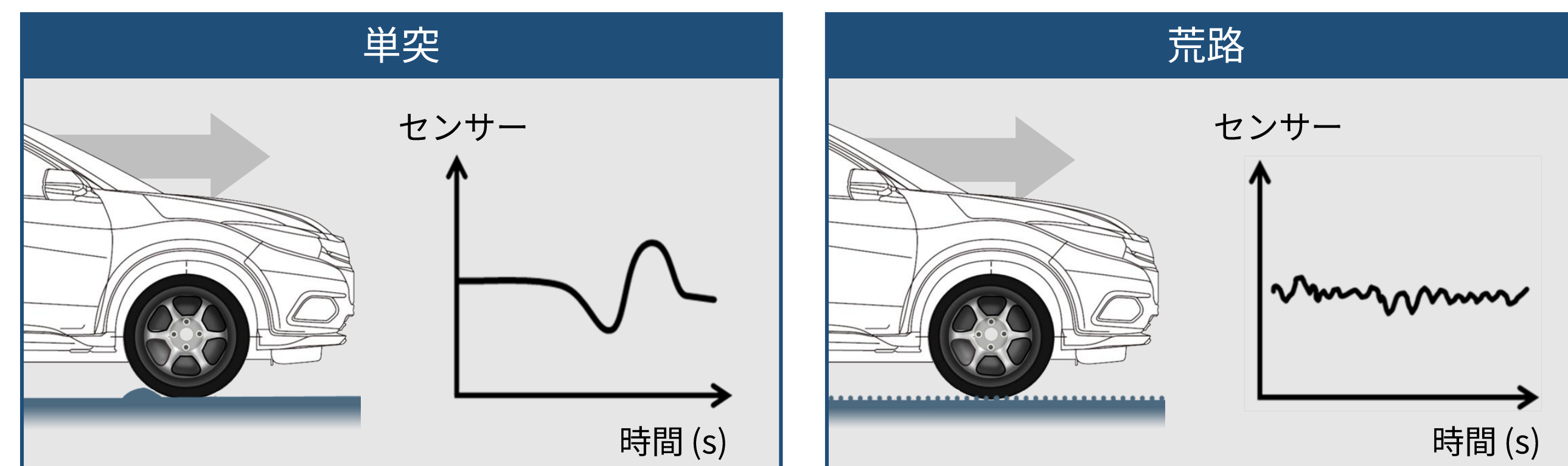
移動情報

- ・ 左右G
- ・ ステアリング操作
- ・ ウィンカー …

車両状態の一部



Gセンサーなどを活用し路面状態を推定



技術の特長

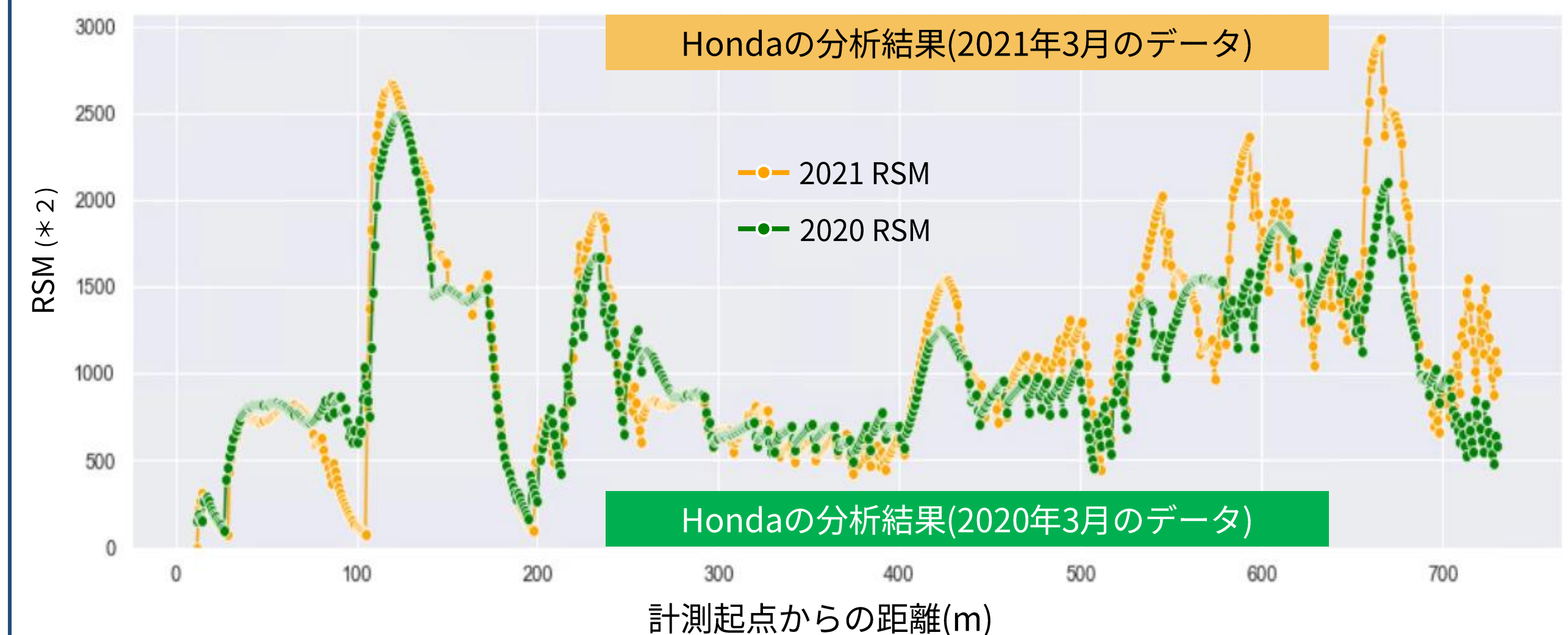
道路管理の国際標準指標であるIRI(*1)と相関性が高く、常時モニタリングしているため、下記の解析が可能

- ・ リアルタイムでPotholeの検出ができる
- ・ 高い精度で経年劣化が分析できる

(*1) International Roughness Index (国際ラフネス数)

過去データとの比較による経年劣化の分析例

2020年と2021年のデータを比較することで、1年間での劣化の進み具合を可視化ができる。



(*2) RSM値……Honda独自の評価値
車載センサーからのデータから算出した道路の平坦性に関する道路路面データの値



In collaboration with the Japan Ministry of Internal Affairs and Communications